

生涯、飛驒の風土・心を描き続ける洋画家

雪の廿四日市

昭和五十五年頃

小枝 利汎展

Rihan Koeda

2020年

10月17日(土)~12月6日(日)

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)

【開館時間】9:00~17:00 (入場は16:30まで)

【入館料】一般200円(160円) / 高校生以下は無料

※()内は20名以上の団体及び障がい者割引料金 ※第3日曜日は家族ミュージアムの日で無料

【主催】飛驒市教育委員会 【協力】小枝 利汎展 協力委員会

飛驒市美術館

Rihan Koeda 小枝利汎展

生涯、**回覧** 飛驒の風土・心を描き続ける洋画家



「馬車」 昭和30年頃



「集落」 昭和35年頃



「待つ」 平成7年頃

飛驒市古川町在住の小枝利汎（1925（大正14年）-）は、昭和23年、高山市の徳永富士子の画塾で学んだ後、絵を学びたい一心で上京、そして帰郷、以後、96歳になる今日にいたるまで絵を描き続けています。小枝の画業の底流にあるものは、厳しい飛驒の風土に生きる人々へのあたたかなまなざしです。どの作品からも、この地に根を下ろし生活を営む人々、とりわけ、親子（母子）、老人への愛おしむ心がうかがわれます。本展覧会では、その心を、「出会い」、「朝市」、「自然」、「飛驒びと」、「回想」という5つの視点から照射し、彼の近年の言葉を添えることで、浮かび上がらせてます。

本展は、小枝が長年率いた、飛驒地域の油彩画の会、一光会のご協力をいただいて実現しました。三四半世紀にわたる小枝の画業をご堪能ください。

関連イベント

会場：飛驒市美術館 常設展示室
※事前申し込み不要

■小枝利汎×副館長トークイベント

小枝氏がよせる油彩に描くことへの想い、歩んできた道、影響を受けた人々等、インタビュー形式でうかがえます。

日時：10月17日（土）

午後2時～

■副館長と絵をみて話そう！

（※小学生から中学生まで）

小枝利汎さんの絵から感じる様々な思い、印象、感情を言葉にすることで、鑑賞を深めます。

日時：10月18日（日）、11月15日（日）

午前10時～

飛驒市美術館

〒509-4221 岐阜県飛驒市古川町若宮 2-1-58
TEL 0577-73-3288 FAX 0577-73-5003

■アクセス

- ・JRにて、高山本線「飛驒古川駅」下車、跨線橋を渡り徒歩5分。
- ・富山よりJR高山本線・特急で約1時間15分。
- ・名古屋よりJR高山本線・特急で約3時間。
- ・お車にてお越しの場合は、市営若宮駐車場をご利用ください。
- ・東海北陸自動車道、清見ICより卯の花街道を通り約30分。

